

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

十三小	学校
-----	----

児童数	28
-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.29	18.29	31.14	38.50	59.07	9.69	149.79	21.64	51.79
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.08	53.02
女子	16.50	20.38	33.62	35.31	47.08	9.58	134.85	14.69	53.15
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

男子女子児童ともに、今年度は全国平均には及ばなかったが、大阪市平均を上回った。特に「握力」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」の項目は、全国平均を上回り、日常生活の中で必要な筋力や持久力が日常的に付けられる状況にあるといえる。その反面、「長座体前屈」「反復横跳び」の項目については全国平均から大きく下回り、柔軟性や敏捷性といった、けがの予防や自分の身を守る咄嗟の動きにもつながる力については課題があるといえる。男子はそのほかに「上体起こし」「50m走」といった体幹の保持や姿勢保持にかかわる筋力や持久力にも課題がある。

質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか。」の肯定的回答については、男子は84.6%、女子は69.2%と全国・大阪市平均より大幅に高い。運動への興味関心が体力・運動能力に大きく影響していることがわかる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今年度も昨年同様に学校アンケートでの「運動やスポーツをすることは好きですか」に対する肯定的回答85%を目指し、体育カードの活用や出前授業の活用、かけ足週間や縄跳び週間の実施に取り組んだ。また、遊びを通して体づくりができるよう運動場での活動を進んで行えるよう児童に働きかけた。運動に対して苦手意識のある児童にも無理強いはせず、自分から取り組んでいけるような声かけや補助を心がけた成果は徐々にではあるが出てきている。運動に対する苦手意識の克服のためにも「しんどい」が「楽しい」に、「できた」「跳べた」という感覚を児童全体が持てるような取り組みとして、大縄跳びの学校全体での取り組みは続けていきたい。出前授業で得られる大きな刺激や感動、思わぬ気づきは児童の興味関心を引き出すために極めて有用であり、今後も積極的に取り入れていきたい。